

ものの「見えにくさ」を

「年齢のせい……」とあきらめていませんか。

「見えにくい」と感じたら、
早めに眼科受診をしましょう。



今や日本人の平均寿命は、男性79歳、女性86歳となり、100歳を超える人も珍しくなくなりました。人は誰しも年をとると、体が思うように動かなくなってきました。

目でいえば、「見えにくい」「しよぼしよぼする」「疲れる」といった症状がでてきます。これら症状には、改善が困難なものもありますが、治療で良くなるものもあります。

見えにくいのを老眼のせいと決めつけ、見えにくさの本当の原因である病気をそのままにしてしまい、その結果、病気を進行させてしまうこともあります。

「見えにくい」と感じたら、早めに眼科受診をしましょう。



高齢者に起こりやすい眼の病気には次のようなものがあります。

「老視（ろっし）……」

老視とは「老眼」の正式な呼び名です。老視は、「遠くのは見えるのに、新聞や雑誌などの文字が読みにくくなる」老化現象、視力障害の一つです。

眼鏡をかけることで見やすくなりますが、症状に合った眼鏡の調整、進行状況に合わせた眼鏡の作り替えが必要です。

眼鏡の処方方は眼科でも行っています。

「飛蚊症（ひぶんしょう）……」

飛蚊症は突然、黒いものが見えたり、光を感じたりするものです。症状が眼の周りに蚊が飛ぶように見えることからこの名前がついています。

原因はさまざまですが、眼球内の硝子体（しよしたい）に濁りが生じることによって起こります。

中には、網膜はく離（もうまくはくり）となり、手術が必要となる場合もあります。

「緑内障（りょくないしょう）……」

「あおそこひ」と呼ばれる緑内障は、本人が気付かないうちに、目の神経が壊れ、視野が狭くなってしまう病気です。放置すると、失明することがありますので、早めの眼科受診が必要です。



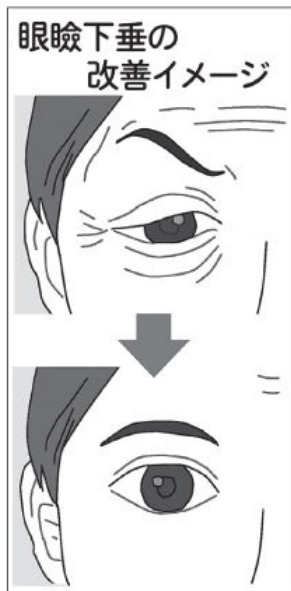
▲美濃病院眼科では、岩崎医師を中心に、地域の皆さんから選ばれる医療の提供に努めています。



「白内障（はくないしょう）……」

俗に「しろこび」とも呼ばれる白内障は、目の水晶体（人間の目をカメラに例えた場合、カメラのレンズに相当する器官）が白く濁る病気です。白内障の治療には、濁った水晶体を取り除き、人工の眼内レンズを入れる手術が必要となります。

美濃病院では基本的に、一泊二日の入院で白内障手術を受けることができます。

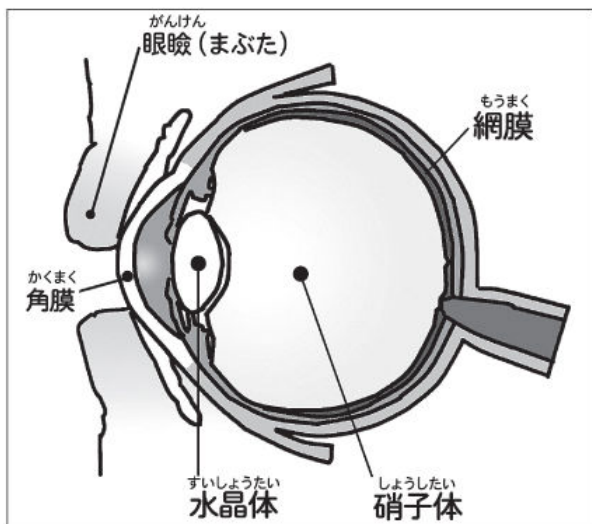


眼瞼下垂の改善イメージ

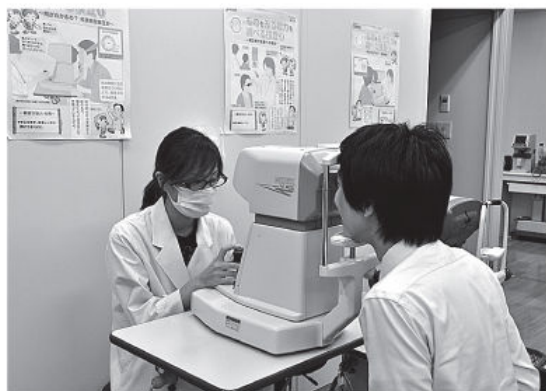
これらは、上まぶたが下がることにより、視界が狭まり見えにくくなる症状です。絶えずまぶたを上げようとするため、肩こりや頭痛になることがあります。

手術でまぶたを上げ、たるんだ皮膚を取ると見やすくなります。

眼瞼下垂（がんけんかすい） 眼瞼皮膚弛緩症（がんけんひふしかんしょう）



▲目の構造



▲視能訓練士をはじめ充実したスタッフが揃う眼科へ気軽にご相談ください。

美濃病院 眼科外来
 (月)～(金) 午前9時～正午
 (水)、(金) 午後4時～午後5時

美濃病院では、眼科医・視能訓練士・看護師などの充実したスタッフが、治療、検査を行っています。老後を明るくはつらつと生きるためにも眼に異常を感じたら、眼科を受診してください。

老後を明るく はつらつと生きるために

**眼瞼痙攣（がんけんけいれん）
片側顔面痙攣（へんそくがんめんけいれん）**

まぶたや唇、頬が絶えずぴくぴく動くもので、ボトックスという筋肉を弛緩（しかん）させる注射で一時的に治すことができます。